

神様転生記

勧酒

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この物語はひよんなことから転生した一人の男の奮闘劇である。

目次

転生編

一話

らしちやうレベルだから!!ちよつと待ってつて!!待ってよマー君!?

「ハハアツ、何時もこうだよ俺が何したつてゆうんだよ。」

そう、この光景は別に珍しいものじゃない。

最早この海鳴りでの俺の対応などジャン○の後ろの方に追いやられ、お情けで存続させてもらっている作家のようなものだ。読者からは「あれ、まだ居たの。」などと言われ、担当者からは「そろそろ新しい可能性も探ってみようか」なんていう打ち切りの雰囲気を出されている哀れな売れない作家さ、でもよー俺が悪いのかよ確かに最初方に飛ばし過ぎて後からネタ無くなつてきたよ? それでもさー頑張つてきたじゃん。三年もやればスゴイじゃん。あの移り変わりの激しいジャン○で三年持たせたんだぜ、ちよつとぐらい愛着あつてもいいじゃん!!それを「まだ居たの?」だ、「そろそろ新しい可能性も探ってみようか」だ、好き勝手言いやがつてよー!!こちとら後ろの方でも頑張つてんだよ!!新しいネタだつて考えてるんだよ!!俺だつて前の方に返り咲きてーんだよ!!でも全然うけねーんだよ!!それをさー心無い言葉で傷つけてよー、そんなに言うんなら打ち切りにしたきやすればいいだろ!!?俺だつてそんなに言われて嫌々やりたくねーよ!!?こちとら豆腐メンタルなんだよ!!。

．．．でもやつぱり打ち切りにしないで、生活出来なくなつちやうから。ナマ言つてスンマセンした!!。

て、違う違う脱線し過ぎた。とりあえずまあ俺こと市川太郎の海鳴りでの扱いについて分かってもらえたと思うけれど何でこんな扱いになったかは次の話に持ち越しにしてもらう。そこで全てを話すよ。

・
・
・
・

ああ、あと一つ大事なことを言わなきゃ、俺こと壬生太郎は実は異世界に迷いこんだ哀れな一人の男だってことを。